

重症心身障害児を守る会大会開かる
六月十三日全国重症心身障害児(者)を守る会の大会が、港区の発明館で十時—十八時迄行われた。

- 一部 開会の挨拶 経過報告 会則案討議 役員承認
 - 二部 厚生大臣 文部大臣 両院議員始め 来賓挨拶 代表者要望
 - 三部 懇親会
- この会の正会員は重症心身障害児(者)をもつ父兄と、その代る者として、
会長 北浦真夫氏 副会長 丹羽正治氏
早苗氏 あと関西から一名だが未決定
理事に東京から十二名 静岡一名 関西一名 会計監査二名の役員が決定した。
二部の大臣方の御言葉は、激励にすぎなかつた。

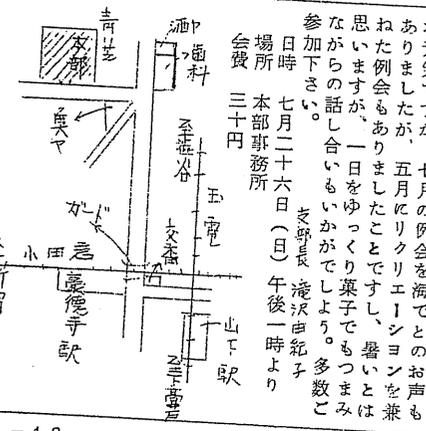
- 一、重症心身障害児(者)のための特別立法制定
 - 二、療育施設等の新設および拡充
 - 三、障害児対策の法令制限撤廃
 - 四、施設職員の待遇改善および職員の確保
 - 五、在宅障害児(者)の指導制度確立
 - 六、重症心身障害児(者)の経済的保護制度確立
- 会長北浦氏は「初めてなのでわかりませんが、皆さんの要望に少しでも応答出来る様様目的に向って邁進して行きたい」と申された。私達もこの会の発展を皆さんと見守って行きたいと思ふ。

(中村)

新入会員

- | | |
|-------|--------------|
| 池内敏夫 | 江東区新大橋一—六 |
| 大谷正美 | 新大橋アパート四—〇 |
| 柏 勢伊子 | 八王子市台町三—二四 |
| 宮本光一 | 宮城県石巻市寿町五八 |
| 山岸和子 | 江戸川区東篠崎三—〇四 |
| 渡辺省三 | 川崎市南加瀬二—二四 |
| 黄助会員 | 豊島区西巣鴨一—三二七七 |
| 島野信子 | R—三—一八 |
| 森下叔彦 | 練馬区仲町三—七七一 |
| | 練馬区小竹町二—五五 |
| | 七棟の三 |
| | R—三—一八 |
- 住所変更者
岡田明子 横浜市磯子区汐見台三—三
磯子住宅一—三三
園府田信子 大宮市日蓮町一
農業機械化学研究所宿舎
山田一郎 千葉県旭山市新井二—二四
二—〇五号
松井 仁 小平市鈴木町一—一〇四
杉山方
秋山和明 恵泉女子短大寮内
北多摩郡久留米町前沢一—五三四
東京久留米園内

*城西支部例会のお知らせ
日増に暑さを増してきますが、支部の皆様お元気ですか。七月の例会を海でとのお声もありましたが、五月にリクリエーションを兼ねた例会もありましたことだし、暑いとは思いますが、一日をゆっくり菓子でもつまみながらの話し合いもいかがでしょう。多数ご参加下さい。
日時 七月二十六日(日)午後一時より
場所 本部事務所
会費 三十円



編集後記

今回は「別府保養所問題」を所内の話題や見学などを特集しました。役員会報告始め身理協、レクリエーションなど報告ばかりになりました。支部便りは紙面の都合により一部省略したのも御了承下さい。もっと会員の声を反映したいので、ユーモアにとんだ意見、感想などをお寄せ下さい。又、ご家庭方の声もお寄せ下さい。会報をより良い物にして行きたいと、思います。一層協力をお願い致します。思い次第の原稿は八月二十日(日)迄。



34
39.9.15

発行所 世田谷区世田谷二—二〇四
伊藤先生方 四二九—〇八八九
社会福祉事業団体
日本脳性マヒ者協会
青い芝の会
責任者 広 報 部
印刷 三誠社 三〇〇—八八〇九

前進を阻害するもの

人も終り今期もすでに半年を迎えようとしています。
この間、会としてはその動向を左右するようないくつかの現象がおこっています。
その最大のものとして、我々脳性マヒとよばれる心身障害者と周囲が急速に社会に溶け込んでいることです。
元々我々の病名には「脳」という字がつく上に、態度その他から誤解されやすいのは云々までもありません。
その上に水上勉・城戸礼等のマスコミに強力な発言力を持ち、その人々のお子さんごたまたま心身障害児であつたことにより、社会の人々の我々に対する先入感となつて現われて来ているのです。
こうした我々に対する誤つた見方は、就職は勿論もつと基本的な障害となりつゝあるも

石橋 玲二

現在の社会は正常な人間にすら十人のうち二—三人の精神障害者が出ています。脳の障害が直接の原因となつている我々の中には三〇パーセントの知能障害者、いわゆる二重障害者がいるのは事実です。
しかしその少数を持つて我々全体を指されるのは迷惑の上もありません。
我々はこれからも社会へのPRを強化し脳性マヒに対する世間のおやまつた考え方を一掃しなければならぬと思ひます。
我々役員は云々までもなくこうした会の前進をはたむものに対して強い反げきの態勢を整え全会員力を結してスクラムを組みましよう。

チャリティ・シヨウ

開催

- 左記のとおり本年度の会の財政をおぎなうチャリティシヨウを実施します。
- 一、出しもの 全音プロによるミュージカル・コメディ。
 - 出演者は楠トシエ、榎本健一等
 - 一日時 十一月五日(木)五甲心として
 - 一、入場料 五〇〇円



昨年同様みなさまの御協力を切望いたします。

母親大会に参加して

副会長 磯部 真教

才十回母親大会は八月三・四日の両日、東京で開かれました。

青い芝の会からも二名の代表と数名の仲間たちが重症障害者の立場から、脳性マヒ者の立場から意見と要求をもつて参加しました。私たちが「社会保障」や「医療問題」などの分科会にも参加したかったのですが参加者が少ない為とその他の事情から「からだの不自由な子供たち」という分科会に集中しました。この分科会に参加されている方々の多くは、助言者をはじめ教育関係者や施設関係者でした。

この分科会の出した申し合せ事項は次のとおりです。

- 一、三才児の健康診断を法制化し心身障害児の早期発見、早期治療、早期教育を実施し重症障害児のための施設を国庫で増設しよう。
 - 二、盲ろう養護学校の就学奨励費を増額すると共にこれを特殊学級に適用させ完全実施を期するため施設の増設と要員の確保につとめよう。ということになっていました。
- これだけでは「なんだこれだけか、関係ねえや……」ということに陥りそうなので当日の一句を報告します。
- 奈良の代表で三十才位になるOPの女性は

「私は専門教育を受けました。そやけど学校出たからいうて、どこもやとつてくれへんこのことよく考えて大人になつたときのこと考えてほしいんやワ……」と言っていました。

障害児の教育を受ける権利を守れという要求。施設を沢山つくれという要求。成人障害者の結婚や職業を考えろという要求。等々沢山の要求が出ました。

私たちが沢山の意見と要求を出しました。からだの不自由な子供たちを総称して「心身障害児(者)」と一環していうので助言者への説明を求めると、身の障害の場合も、心の障害の場合も身+心の障害の場合も全て含めての意味だという。そして、心の障害の重いと軽いは、心身障害だそうです。従って心身障害と心身障害は違うのだそうです。

この説明は公式的で他人言の説明である。私たちは、身の障害の場合と身+心の障害の場合をはつきり区別するように説明を加えて要求しました。また三才児の心身障害の早期発見ということについては医師によりその診断も違うし脳性マヒなどの場合はその判明もむづかしいと思うので簡単にレントゲンを張ることなく慎重を期することを要求しました。

施設の増設については「増設に反対するの

ではありませんが、私たちは唯その施設の中へ入れられる奴のことをよくよく考えて頂きたい……入れればことたりる主義は入れられた奴にとつてどんなものであるか……たところもあり、その中で働く人々も入れられた仲間たちも社会生活から、社会の文化生活から切り離されて孤立した生活を営まなければならぬ……それが人間にとつてどんなに耐えがたいものであるかを話し「施設をつくる時は社会から離れた所につくるのではなくて、町のドマン中につくるように……」と要求しました。

以上のように私たちは私たちがなりにいろいろな意見や要求を出したのですが、取り上げられるまでにはありませんでした。この原因がどこにあるか、皆さんで考えてみて下さい。私も私なりに考えてみました。私たちが脳性マヒによる重度の身体障害者であることを家庭で社会で日々の生活の間から、どんな状態にあるかを知ること、同じ仲間たちの中で知り合い、自覚し合うとき、私たち一人一人の中からのいんな要求が続出するのである。同じ苦しみをもっている仲間たちが手と手を固く握り合つて生きようとするとき、全国二十余万人の脳性マヒ者が手と手を握り合つて生きていき、私たちの要求もまた一つの大きな要求として、大きな力を発揮するであろう……

山北 厚

八月二日・四日の三日間、愛知県知多半島の海浜において名古屋「いずみ会」のキャンプが行なわれ、それと同時にそこで、かねてから話し合われて来た日本脳性マヒ者協会の設立準備会を開くことになつたので、本会から山口渉外調査部長兼組織統制部長と会長の私がそれに出席参加した。

このキャンプには広島「ひかりの会」からも田部会長他三人が参加していた。先に日本脳性マヒ者協会設立準備会のことから報告する。今年の四月、本会の総会が終つた後に「いずみ会」と「ひかりの会」の代表、及び本会役員との間で、かねてから話しあつた脳性マヒ者の全国組織をつくることについて基本的な事が話し合われてまゝとめられ、それについて本会が今夏までに全国組織、日本脳性マヒ者協会の規約草案を作ることになつて来たのだが、いろいろの事情でその草案が半分しか作られていなかったので、今回はとりあえずその半分の草案を持つて行つて審議することにした。

この規約をつくるに當つて一番問題となつたのは、各地域に独立した脳性マヒ者協会があつてその連合体として日本脳性マヒ者協会がある形にするか、日本脳性マヒ者協会が各地域に支部をおく形にするかであつたが、

「いずみ会」と「ひかりの会」の意見により支部制をとることになつた。その他の事項については字句の修正程度で殆んど本会の草案通りに決つた。

二二日の朝名古屋に着いた私たちは、健身会館にて「ひかりの会」の人たちや「いずみ会」の人たちと合流。そこを九時にバスで出発し、二時間半ほどで目的地に着く。昼食後ビーチハウス横の神社の境内にテントを三つを張つたことがない。御飯もハンゴウでた人来て、キャンプファイヤーを囲んで唄つたりおどつたりする。

二日目は午前中全員で、私たちの福祉の問題やコロニー、施設の事等について討論を行い、午後は幹部の者だけで先の規約を検討する。そして夕刻私たち二人はなごりを惜しみつつ帰途についた。

※福祉年金について

昭和三十四年九月福祉年金が制定されてから満五年になりました。障害福祉年金は私達の唯一な社会保障の一つですが、来年度から年金を受ける人のワケが広くされますが、この九月三十日迄に申請しておかないと、永遠に除外されますので、該当者以外の方でも申請されていない方は九月三十日迄に申請なさつて下さい。



私たちが一人一人が二十万の仲間たちの要求をほんとうに代表するとき、どんなに肢体不自由な言語の不自由な仲間の小さな声であろうと、二十万を代表する声として、どの様な人々にも私たちの要求や声は一つ一つ聞き入れられ、私たちの問題が一つ一つ解決されて行くのであろう……これが欠けていないだろうか) 私たちの参加した分科会の参加者の多くの人々の心のどこかに、私たちの意見や要求が無形の型で残つていて、私たちが「いずみ会」を、生かすのは私たち自身の正しい行かかつていないのではないだろうか。仲間の皆、さん、私たちのやつていようと手をはんとしように通り合つて生きていこうではありませんか。青い芝の会のあることを多くの仲間たちに知らせようではありませんか。私たちの会を私たちが一人一人の力で大きくしていこうではありませんか。それは私たちの幸福に通じるのではないだろうか。最後に、新前の役員が私ですが、仲間たちの意見や要求を代表出来るよう一生懸命頑張りたいと思います。向紙面の都合で報告が簡単になつたことを御詫び致します。

役員会報告

七月十二日 出席 山北 磯部 石橋 星野
芝 高垣 篠崎 山口 菊池(議長・磯部)
○ 教養文化部長の件 総会以来欠員にな

○ 東京「くろめ園」の理事を本会から出す
件 田中先生から、くろめ園の理事を「青
い芝の会」から一人送り込んでほしいとの申

その他各役員から夫々意見が述べられるが
どちらとも決し難いので、採決によって決定
することにする。

採決の結果、議長を除いて四対四の同数な
りで行き場のない人たちの問題と施設造り
高垣I君の行き場がなくて困っている。と

しておいてくれた家を、一生面倒をみてもら
うつもりで弟の名義にしてしまったところが

高垣I君の家で引き取らないと云うのは解せ
ない。彼の場合家に帰るより仕方ないので

○ キャンプの件

事務局報告 前回役員会で定めた候補地は二
カ所共うまく、会長の口きで神奈川県
社協の関係で丹沢山麓に適當な所があるとの

○ 教養文化部長の件
毎週一回図書貸出しを定め、その日は図書
をばかりでなく、会員が相談したり話し

○ 社会活動部から
(一) 社会事業学校の学生が重身障者収容施設
の設立要求署名運動をせよと云って来た

八月九日 出席 山北 石橋 磯部 星野

芝、山口、篠崎、高垣、菊池

○ 身連協幹事増員の件 身連協より本会
からの幹事を二三名増員してほしいとの要望
があり、とりあえず芝氏を追加することにす

○ 八月二日、二四日に催される日本脳性
マヒ者協会準備会を兼ねた名古屋いずみ会の
キャンプへは山北、和田、山口が出席。

○ 収容施設を設けることについて
事務局報告 一昨日会長と会計と三人で身
障センターの和田先生を訪ね、栃木県の土地

○ 管理責任は自分でそこへ行く決意を表明
した高垣、石橋とする。

○ 早急で山北、石橋、磯部、和田、星野

高垣で設立準備会を設ける。
○ O.P.者に適する職業(作業)について
高垣一名古屋いずみ会が今度名古屋に出来る

○ 七周年記念冊子について
広報部より七周年記念冊子は、収容施設につ
いての事を集中的に取り上げ、会で設立する

○ 会計係より報告
四月から七月までの収支はいくらか黒字です
が、施設へ三十万円回すと残りは五万円しか

連日三十度を超す猛暑で記録を破るかと思われたこの八月。年毎に増えて行くハイカーの群。その混雑をきけ終夏の土日ははさんで丹波の清澄な空気を求めた。

二十八日新宿駅へ集まったのは二十名。いずれも両手いっぱい荷物。はち切れんばかりのバッグを抱え見送りに来ているお母さんが四人ほど(先日の打ち合わせ会の結果でしよう)山の中なので何も売っておりません。〇〇さんがまだ来ないけど、何したのかしら……」

「××君がいらないヨ。お母さんはホームでうろうろしてるけど」
発車時間は幹事さんの汗だくの顔を横目で見ながら刻々とせまってくる。
平日にもかかわらず車内は混んでいた。やつと坐れたものの発車ギリギリに乗った係の下手際から途中で前の車輦に移らなければならなかった。大森野からバスで山路を一時窓外の景色は素晴らしい。ヤビツ峠でお腹をたしホームの車で直行組とタクシー組に。

「こゝから歩いて二時間位ヨ」
「せつかく山へ来たんだから歩かなくつちやあつちらない」
三組のカツルは凸凹路をよるめき乍ら歩き出した。とどかく草所附近のビル・ラッシュとは比べものにならない空気のおいしさだ。心の内で汗々しくなる。そんなこんな

で一時間。
「オィーそんなに早く行くなヨ……まだかよオ、あとの位だ。」
「さつきの道標だとまだ二時間位あるわヨ」
「何かないか、さつきのおむすびくれヨ」
おむすびをかじりかじり××君。いさよか足元があやしくなつて来た××君。
はじめの意気込はどこへやら、引き返したホームの車に一人残りすひろわれた。

「一日目はどうやら無事に……と思いきや消灯間もなく「キヤーツ」という悲鳴。イザ何事とステムコ姿の勇者二人「虫がいるのヨ一杯」
「あつ背中へ入つちやつたホラ！こゝよ」背くなつている〇〇さん。日ごろ男の子には強いのに、まだまだ虫がつくらしい。
二日目は朝から雨に見舞われた。ビシヨぬれになつた六人が新たに加わり、夜はゲームに笑ひこころげた。皆さんは会長のワンワン姿をこらんなつたことありますか。
翌日は晴れ間を見ての虹マス釣り。釣れること釣れること、だつて未来の〇〇〇を釣り上げた御人もあるとか。

背空の下、幾重にも連なる丹波の山々、私達をうるおしてくれる穏やかな渓谷。最終日は自由行動であつたよめ、おじいさんは山へ尻もちつきにおおあき川へ「ハハハ」マイクロボスにかた身を狭くして五人掛け(地盤軟かし徐行)の標識に思はず「押さま生命に別状なく全員帰京。(ヤレヤレ)

×事務局長より×××
本年度事務局長の課題の一つは先号の事務局便りに書いたように事業基金の調達であつた。いさよか焦り気味になりかけていた九月幸運にも(?)それが二つ同時に来てしまつた。

一つは厚生年金会館が橋渡ししてくれた販売楽団の公演であり、他方は全音プロのエノケン等が出るミュージカル・コメディであつた。
会にとつてこの二つのいずれをやるか臨時に再び支部長をまじえての二度の役員会で検討した。説元を選ぶ事務局側と全音を可とする他の役員諸君と今迄にこれほど対立したことはなかつた。

何時か久留米園の田中先生の云われた「会とは具体的な目標が出る度に行かれたがるものである」という言葉の正確さに今再のように感心してしまつた。いづれにせよこの位のことでは役員脱落、それ以上の悪い状態も起るような弱い会ではないと思ふが……。
説元を運ぶ方は会の動員力を信じてのことだし、全音の方は大衆向であり役員にとつて切符が売り易いというのがそれをおす理由であつた。どちらをやつても会にとつてそれが利益になるのなら良いのだ。それよりも会の基本は全員の団結である。我々の目指す道はまだまだ険しい遠い。
事務局にしても今度のことは貴重な体験であり、これから約四十日全音プロの切符販売に最善をつくして行きたい。

久留米園から芝への要望として

七月二十六日、わたしは城西支部では七月の例会を本部で開きました。暑い中での出席者は十九名でしたが、菓子を前にのかなかの活発な意見には嬉しさも何のそのといった雰囲気を感じておりました。

まず議題を五項目に別け、主に芝の動きについて議論され「センター医療問題について芝の態度は消極的な所があつたのではないか」「会報のあり方について木村浩子さんの問題」
「センターの問題にしろもつと会員に……いくように書いてほしい。」との意見が出され、次に施設からの報告として久留米の仲間より「現在久留米には十四五人の芝の仲間がいる。仲間の中には生活保護によつて生活している者が多い。こういう点から朝日訴訟の署名や援助をしてほしい。」

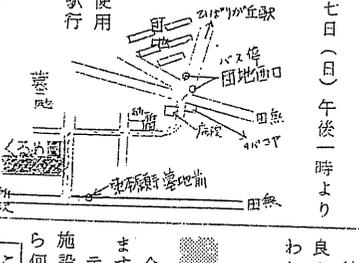
久留米園から芝への要望として
一、センターの医療問題を青い芝の中にも重点的に取り上げてほしい。
二、生活保護についても取り上げてほしい
三、木村浩子さんの問題についてもつと積極的に運動してほしい。
以上久留米園からの意見が出され、ついで自分たちの問題として討論され、その中から、「一人の仲間が一人の仲間を持つ」ということが話し合われました。
その一つの理由として、比較的軽便な人達

久留米園

は例会でも何でも出ていける。しかし重度な人達というのは出歩くことが出来ないし、自分の意見も述べることも出来ない。実際に云うならば重度の人達の意見がのべられてこそ芝の会の発展がなされていくものなのだ。そんな点からいつまでも役員に頼るのではなく、一人が一人の仲間を持つことは大切ではないのか。これは城西支部だけではなく、芝全体の言葉にしたい。という意見も出されました。以上いかめしい例会になりましたが、良き意見や発言というものは会員の中だからこそ出されるのであつて役員や何かの中からは生まれ出ません。これからどうぞ皆さんのご支援をお願い致します。

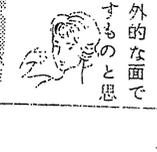
次回北多摩にある久留米園で例会ということにして、七月の例会を終りました。久留米の仲間と一日を楽しく話し合いました。多教ご参加下さい。

日時・九月二十七日(日)午後一時より
場所 久留米園
会費 三十円
西武新宿→田無下車
田無よりバス使用
所沢行→東本願寺
墓地前下車一分
国電小金井よりバス使用
団地經由ひばりが丘駅行
団地西口前下車四分
又は東久留米駅下車



菊池 真佐子さん (教養部長)

彼女を短い言葉をもつて云い表わすならば「野にさいた可憐な一輪の花」と云えましようか。……「青い芝」という雑草の茂つた中に在つて、ひととき彼女の美しい容姿は明るく伸びやかに存在しております。
彼女も会の活動に勤んでおられる片われ、自分の女性らしい洋裁のお仕事にも、人一倍活発に動いておられます。
彼女はその美しい顔立ちにも似わず、時々自分の思つていふことを、あけすけに「ズバリ」「ズバリ」云つてのけるという一つの貴重な個性をもち合わせておられます。その個性こそ、会の女性会員の代表にふさわしいものであり、女性会員が会での位置を高める原動力になることでしょう。
彼女も星野さんと共に、会の対外的な面で良きホステスの役割りを立派に果すものと思われまます。

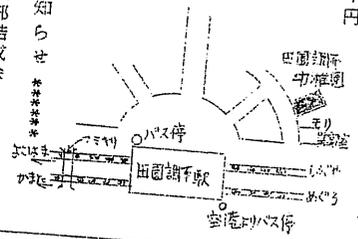


記念号の原稿募集

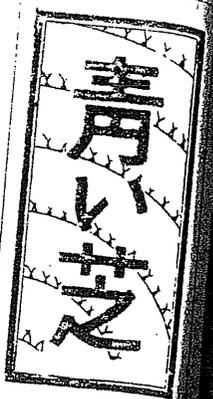
今年の記念号は、収容施設について募集します。
テーマは自由ですが、施設を見学した事、施設に対して望みの事、施設に関係のあるなら何んでも結構です。
この原稿は十月十日〆切り。

中央支部のリクリエーション
八月二十三日中央支部のリクリエーション
が参加者十五名で、小型バスで行われた。
コースは、東京国際空港—横浜山下公園—
三溪園—東京タワー—銀座であった。
一行は新宿からの有料街道を空港へと出発
したが、有料街道があまりよく出来上つたの
で、目を見張るばかりであった。
東京国際空港には下車せずに入口で着陸し
ている飛行機を遠くから見学してから横浜へ
と走った。山下公園の休養所で食事をしたか
ら公園に入つたら船が入港していたが、見学
はしないで、ぶらぶら歩いた。海の蒸がして
いい気持ちであった。それから、三溪園へ行つ
たらやはり海の廻りが公園になつていて、小
山もあつた。三溪園をあとにして東京タワーへと
バスは走った。東京タワーの数十米をエレベ
ーターで一分で上つたら、東京湾から東京の
深の姿を一目で見ると、日本の一番大切な所
と思えない程、ごみごみした所と思つた。
しかし、残念ながら曇つていた為に、遠く
方迄は見る事が出来なかつた。
東京タワーをあとにして、銀座を通り新宿
へ帰つて来た。
太田君が妹さんと参加した事は、意儀があ
つたと思う。一人で外出出来ない方が、一人
この会の目的ではないでしょうか。

城南支部例会のお知らせ
さわやかな秋を迎えて左の如く支部例会を
開きます。青い芝はみんなの会、ホラ君もあ
なたも皆さんおいで下さい。お友達に会える
のもまた楽しいものです。
とき 十月四日(日) 午後一時より
ところ 田園調布幼稚園
東横線・目蒲線田園調布駅(西
口)下車徒歩五分 東横百貨店・成
城学園からのバスもあります。
五十円
かいひ
* 支部のお知らせ *
九月十二日 福岡支部結成会
福岡市春吉藤原 福岡母子会館で行われた。
九月二十七日 川崎支部例会
川崎公民館で午後一時に行う。



城北支部よりお知らせ
新支部長 鈴木 敏正
朝夕はすっかり秋風が心よく福になびく様
になり、非常に一日がすこしくなりました。
さて城北その他各支部の皆さんにお知らせ
します。
この度び城北支部長山本安雄君が家庭の事
情から支部長をやめることになりましたので
支部役員会議で選挙の結果私こと鈴木敏正
が、未熟者で愚か者でございますが、この九
月より支部長をやらせて頂くことになりました。
については会員の皆様は御支援と御協力を御
願ひ致します。
* * * 編集後記 * * *
朝夕はすっかり秋風になりましたが、皆さ
ん方何されていられますか。
会の活動を中心にして編集を進めました
会に関心をもつて読んで下さい。
母親大会について感想をのせましたが、私
達の関心をもつと一人一人が、深める
為に努力致しましょう。
キャンプや支部のリクリエーションなどを
報告もしておきました。
記念号に全力を上げて致しますから、一層
の協力をお願い致します。



七周年を迎えて

本会もこの十一月三日で発足から満七年に
なつた。ふりかえつてみるとこの七年、光陰
矢の如しで真にあれよあれよと云つている間
に過ぎてしまつたようにも見えるし、一方、
実に長い長い道中であつたようにも感じられ
る。そして、その七年間にどれだけを考へし
て来たか、又、現在何を考へているかを考へ
ると、何一つとして声を大にして自慢できる
事がないように思えて、ある可立たしさを感
じる。会員のため、と云うよりも個性マヒ者
のためになければならない、もつと大事な
事が忘れられているような気がする。では、
その忘れていた物は何か、と問われても私に
もそれが何であるか具体的に云えないのだが
たしかに会ではなければならない重要な事を
落していると思える。その忘れられ落され
ているのは何か、会員の皆様さんも考へてそ
れを役員におしえて頂きたい。

No. 35
39.11.20

発行所 世田谷区世田谷二丁目三〇三
伊藤先生方四二九〇八六五
社会福祉事業団体
日本個性マヒ者協会
青い芝の会
編集者 広 報 部
責任者 三 城 社三〇〇・八八〇元

会長 山北 厚
発足当時の役員で今も本部役員でいるのは
考へてみたら私一人である。それだけ新陳代
謝が行なわれ、会の運営に新しい考へが取り
入れられている筈なのだが、どうも初め頃と
あまり変り榮えがしないようだ(たしかにい
くらかは新しい考へによる活動が採択されては
いるが……)。また、当初は役員の中で結
婚している者は一人もいなかったが、現在は
役員の中の三分の一は結婚しているオンサンであ
る。結婚しているという事は親の被護から
脱け出し、少なくとも自分の生活に責任を持
つていふことであつて、それ相応に物の考へ
方もしつかりした堅実さがあるわけだ、会の
運営決定に際してもその堅実さと社会的恩恵
による慎重さが出て来ていると思える。しか
しその反面積極性に欠け事なれば主義に陥る
いはば老化現象が起つていふのではないだろ
うか。

身連協総会と
運動方針案について

別紙案内状の通り、この四月に開くはず
が延々になつていた身連協身二回総会が、十
二月六日(日)に国立身障センターで開かれ
ることになった。
本会役員会(十一月十五日)では、その総
会へ出すため身連協幹事会でもとめた五項目
の運動方針案(案内状掲載)について検討を
加えた結果
身障者福祉法の根本的改正
を追加提案することにした。その理由は、身
障者福祉法が全ての身障者福祉施策の基本と
なつていたのであつて、現在、重度身障者対
策が最もおくられているのも、同法が更生自立
可能な者を対象として重度者に対すること自
然とふれていて、又、盲、ろう、切断障害
者を主な対象としていると思えるものである
といふことが、一つの大きな原因となつてい
ると考えられるので、同法をあらゆる全ての
身障者を対象としたものに改正しなければ、
DP者の福祉も向上しないといふことである。
この本会の決定を二十日の身連協幹事会に提
案したところ直にとり入れられ、運動方針案
の最初に加えられることになった。
なお、この総会には本会会員も多数出席さ
れることを望みます。(弁当持参)(山北)